

目 的

県内の溪流漁場では釣りによる漁獲がほとんどであり、竿釣り以外の漁具・漁法を制限している漁場も多い。溪流漁場の運営にあたっては、より多くの釣り人を漁場に呼び込むことが必要である。本課題では、釣り人のニーズを幅広く把握するため、ICT を活用し、釣獲魚に対する釣り人の満足度を調査した。

材料および方法

おじか・きぬ漁協管内で溪流釣り（イワナ、ヤマメ、ニジマス）を行う釣り人を対象とした。Google drive を使用して投稿フォームを作成し、釣り方（ルアー、フライ、テンカラ、エサ）、釣獲した魚種、魚種ごとの釣果、釣行した漁場（鬼怒川、C&R 区間、男鹿川、テンカラ専用区）、満足度（満足、不満足）、満足度の理由（複数回答可）等の情報を収集し、集計した。なお、C&R 区間は鬼怒川の一部区間、テンカラ専用区は男鹿川の一部支流に設置されている。調査期間は解禁日から禁漁まで（2022 年 3 月 21 日から 9 月 19 日）とした。ニジマスについては、9 月 20 日から翌年 2 月末まで釣りが可能なため、同期間についても調査対象とした。

釣り人に対しては、当場のホームページおよび Facebook「釣れたかプロジェクト」リページを活用して協力を呼びかけた。

結果および考察

調査期間中に延べ 114 件の投稿が得られた。内訳を見ると、満足との回答数は 107 件（93.9%）で、不満足との 7 件（6.1%）に比べて非常に多かった（表 1）。不満足と回答した理由を見ると、釣果と回答したのは 3 件だった（表 2）。一方で、満足と回答した群の平均釣果は 5.2 尾だったのに対し、不満足との群では 2.0 尾と有意に低かった（welch の t 検定； $p < 0.001$ 、表 1）。このことから、不満足の理由には回答に関わらず釣果が影響していると考えられた。

満足と回答した群について、釣り方ごとに満足度の理由を集計した（表 3）。十分な回答数が得られたルアーとフライについて比較したところ、理由の頻度分布は有意に異なっていた（Kruskal-Wallis 検定； $p < 0.05$ ）。フライでは、魚のきれいさやサイズ、釣れた魚種など、

表 1 満足度の内訳と釣果

	延べ回 答者数	釣 果	
		平均	範囲
満足	107	5.2	1-3
不満足	7	2.0	1-73
計	114		

表 2 不満足と回答した理由と内訳

理 由	回答数
釣果	3
サイズ	3
釣り人が多い	1
計	7

魚に対するこだわりが強い傾向が見られた。漁協への聞き取り調査では、魚の見た目を重視して放流を行っているとのことだった。同漁協のねらいは遊漁者のニーズに合致しており、満足度を高めることに成功していると考えられた。また、テンカラ専用区は 2021 年度に初めて導入され、今年度で 2 年目となる。テンカラ釣りでは専用区の設置を満足の理由に挙げた割合が高かったことから、潜在的な需要を掘り起こすことができたと考えられた。

表 3 釣り方ごとの満足と回答した理由（%）

回答数	ルアー	フライ	テンカラ	エサ	計
	107	78	27	4	216
魚のきれいさ	24.3	37.2	22.2	25.0	28.7
釣果	24.3	19.2	18.5	50.0	22.2
サイズ	11.2	19.2	7.4	0.0	13.4
釣り場の環境	18.7	7.7	14.8	25.0	14.4
釣れた魚種	9.3	12.8	7.4	0.0	10.2
専用区の設置	3.7	2.6	22.2	0.0	5.6
釣り券の利便性	4.7	0.0	3.7	0.0	2.8
釣り券の値段	3.7	1.3	3.7	0.0	2.8

釣行した漁場の内訳は、釣り方ごとに有意に異なっていた（Kruskal-Wallis 検定； $p < 0.001$ 、表 4）。ルアーではエサ釣りも可能な鬼怒川の最も割合が高く、男鹿川にも約 25%が釣行していた。一方、フライでは 8 割以上が C&R 区間に釣行しており他の漁場への釣行数は少なかった。また、回答者数は少ないものの、テン

カラでは約 85%がテンカラ専用区に釣行していた。県内の多くの漁場では、ルアー・フライ・テンカラは疑似餌を用いる釣りとしてまとめた漁場運営が行われている。しかし、今回の結果ではこれら3種類の釣り方で嗜好性や漁場の選択基準が異なることが示唆された。今回調査対象としたおじか・きぬ漁協の管内は大規模な漁場とは言いがたい。しかしながら、「漁場のゾーニング」によってニーズの異なる釣り人層の満足度を高めることができていると考えられた。

表 4 釣り方ごとの釣行した漁場 (%)

	ルアー	フライ	テンカラ	エサ	計
回答数	58	45	7	4	114
鬼怒川	55.2	11.1	0.0	75.0	35.1
C&R区間	19.0	82.2	14.3	—	43.0
男鹿川	25.9	6.7	0.0	25.0	16.7
テンカラ専用区	—	—	85.7	—	5.3

参考文献

- 1) 渡邊長生. ICT を活用した漁獲データの収集による 漁獲量の推定. 栃木県水産試験場研究報告 2020 ; 64 : 34-35.

(指導環境室)